授業科目名	病 態 生 理 学 特 論 *Advanced Studies in Pathophysiology*			担当教員	荒川　満枝 小林　裕美、山勢　善江 乗越　千枝、濱元　淳子	
開講年次	1年前期	セメスター	1		時間数（単位数）	30（2）
必修選択	選択 （CNS コース必修）	授業形態	講義		使用教室	
授業の目的	対象の病態生理学的変化や生理機能の異常、様々な疾患や病態の評価方法ならびに治療介入による変化等、臨床判断するための知識と技術を修得する。					
到達目標	1．組織・細胞レベルで疾病を理解し、説明することができる。 2．病態を、疾患の回復過程との関係性を踏まえて説明することができる。 3．疾病の原因とその生体の反応を踏まえた看護を計画できる。					
授業計画	【学修内容】 高度実践看護師は、その実践において人間の身体に生じる様々な病理学的変化に遭遇する。その病態の成り立ちを器官、組織、細胞のレベルで理解し、さらに、病態の発生メカニズムの分子レベルでの理解をすることで、病理診断、医学的判断過程を看護実践に活かすことを目指す。授業では、以下の内容を組織観察と討議を取り入れて行い、理解を深める。 【授業計画】 1回　身体の構造と機能の概要　（荒川） ・履修者の実践と本科目の履修内容との関連性に関する討論 ・細胞，組織，器官の関係と恒常性の維持に関する知識・理解の確認と討論 2回　総論：病理診断方法概要，細胞の障害と修復　（荒川） ・正常細胞の形態や機能，細胞周期に関する理解（細胞・組織観察含む） ・組織観察の基本とその原理，意義 ・変性，細胞死，酸化ストレス，萎縮・老化，肥大・過形成，化生（細胞・組織観察含む） 3回　総論：炎症と免疫，アレルギー，移植と再生医療　（荒川） ・炎症の兆候と炎症反応と免疫担当細胞の働き（細胞・組織観察含む） ・各アレルギー反応における免疫担当細胞の働き ・ES 細胞，iPS 細胞 ・創傷治癒 4回　総論：感染症　（荒川） ・主要な病原体と感染症 ・常在細菌叢と日和見感染症，新興・再興感染症 ・感染症の治療と予防；抗菌薬と薬剤耐性，抗ウイルス薬 ・感染症における対症療法と看護の重要性 5回　総論：循環障害　（荒川） ・静水圧と浸透圧に関する理解と浮腫，充血・うっ血（細胞・組織観察含む） ・凝固系・線溶系の理解と出血，出血傾向，血栓，塞栓・梗塞（細胞・組織観察含む） ・ショック 6回　総論：代謝障害　（荒川） ・脂質代謝異常（細胞・組織観察含む） ・タンパク質代謝異常（細胞・組織観察含む） ・糖質代謝異常 7回　総論：腫瘍　（荒川） ・腫瘍の定義・分類（細胞・組織観察含む） ・悪性腫瘍の転移，進行度 ・腫瘍の宿主への影響 ・腫瘍の発生機序，がん遺伝子，がん抑制遺伝子 ・腫瘍の診断方法，腫瘍マーカー 8回　総論：先天異常と遺伝子異常，老化　（荒川） ・染色体と遺伝子の構成についての理解と染色体異常，遺伝性疾患 ・胎児の障害 ・遺伝子の異常による疾患と遺伝子多型					

授業計画	9回　各論：循環器，呼吸器の疾患 の事例紹介と分析（プレゼンテーションと討議） （荒川、山勢、小林、乗越、濱元） 動脈硬化症，心肥大，狭心症，心筋梗塞，肺炎，慢性閉塞性肺疾患，肺がん　等 10回　各論：消化器・内分泌疾患 の事例紹介と分析（プレゼンテーションと討議） （荒川、山勢、小林、乗越、濱元） 消化器がん，クローン病，潰瘍性大腸炎，肝硬変，膵炎，糖尿病　等 11回　各論:脳・神経疾患、腎・泌尿器・生殖器・乳腺の事例紹介と分析（プレゼンテーションと討議） （荒川、山勢、小林、乗越、濱元） 脳梗塞，髄膜炎，アルツハイマー病，腎不全，ネフローゼ症候群，腎がん，前立腺がん，子宮筋腫，子宮頸がん　等 12・13回　クリティカルケア分野における実践事例を元に、病態生理学の知識を活用し、健康状態のアセスメントおよび個別の看護援助について検討する。それぞれの専門性に合わせて個別（またはグループ）で検討し、プレゼンテーションを行う。 （荒川、山勢、濱元） 14・15回　在宅看護分野における実践事例を元に、病態生理学の知識を活用し、健康状態のアセスメントおよび個別の看護援助について検討する。それぞれの専門性に合わせて個別（またはグループ）で検討し、プレゼンテーションを行う。 （荒川、小林、乗越）
学習方法	総論では、講義を通して患者の病態を細胞・組織レベルで理解する。各論では、各受講者の追究したい疾患を中心に、総論で得た知識を統合してプレゼンテーションし、ディスカッションを通して深く学ぶ。
オフィスアワー	アポイントを取ってください。 marakawa@ns.tcn.ac.jp（荒川） h-kobayashi@jrckicn.ac.jp（小林）　y-yamase@jrckicn.ac.jp（山勢） c-norikoshi@jrckicn.ac.jp（乗越）　j-hamamoto@jrckicn.ac.jp（濱元）
テキスト	大橋健一：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 1．医学書院，2015.
参考文献	田中越郎：系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進 2．東京，医学書院，2011. 下 正宗：正常画像と比べてわかる 病理アトラス　改訂版～全身がみえてくる！ 118 疾患 1000 画像．東京，羊土社，2015. エマニュエル・ルービン著，鈴木利光 他訳：カラールービン病理学―臨床医学への基盤．東京，西村書店，2007. エマニュエル・ルービン，ハワード M. ライスナー著，河原栄，中谷行雄 監訳：ルービン カラー基本病理学．東京，西村書店，2015.
評価方法	レポート 50%、プレゼンテーション 30%、ディスカッション内容 20%